

| | |
|------------------|---|
| Title | 史學研究會報告；國史談話會報告 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1953 |
| Jtitle | 史学 Vol.26, No.3/4 (1953. 6) ,p.159(305)- 161(307) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 彙報 |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19530600-0159 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

史學研究會報告

第四一一回例會

昭和廿七年十一月十九日午後三時 於六番教室

ナポレオンのドイツ政策

鈴木 泰平氏

筑後に於けるキリシタン宗門の研究

松本芳三郎君

——特に久留米を中心とした——

南北戦争の一考察

——セコンドコンプロミス及びボーダーステーツの

態度について——

日置 益君

第四一二回例會

昭和廿七年十二月十七日午後三時 於六番教室

乾隆ガラス漫談

島田 久吉氏

磐城海岸地方の上代歴史地理

井口 悦男君

安政年間に於ける英學の擡頭

鈴木 正君

第四百十三回例會卒業生送別會

昭和廿八年一月二七・八日午後一時 於二三番教室

土蜘蛛について

岩岡 新吾君

宇佐八幡の出現と歸化人

佐志 傳君

令外官について——成立の年代を中心として——

萬葉集の挽歌における史的考察

犬塚 顯君

古代に於ける磐城海岸地方開拓の一研究

沼田 俊作君

日本上代の弓について

井口 悦男君

南北朝合體後の皇位繼承に關する一考察

前田 英久君

近世城下町興隆政策の研究——大和郡山の場合——

森 忠彦君

九州の百姓一揆

中金 和義君

江戸時代に於ける百姓一揆の一研究

春日 雅孝君

江戸時代に於ける税と農民

鈴木 孝君

江戸時代に於ける江戸上方間の海上運輸について

官内 勝治君

——菱垣廻船と樽廻船——

大菅 一夫君

江戸十組問屋仲間に於ける徳川時代の經濟的封建制度の研究

江戸時代の飛脚について

林 榮二郎君

筑後に於けるキリシタン宗門の研究

石原 清敬君

——特に久留米を中心とした——

石門心學思想の變遷に關する一研究

松本芳三郎君

英學發達の性格に關する一考察

上村 俊郎君

——蘭學より英學への轉換期を中心として——

江戸時代風俗の一考察

鈴木 正君

町火消を中心とした江戸火消の内容

田口 晋君

江戸の上水道について

中島 誠介君

井伊直弼の歴史的地位

小篠 菊雄君

人類とオプティマム

角田 智君

クリスト教徒初期の迫害に關するその法的根據と

辻村 學君

ネロ帝下に於けるクリスト教徒迫害

筒井 信夫君

メロヴィンガ王朝に關する一考察

萩原 要君

西洋中世の大學に於ける學生々活

森脇 龍也君

マグナカルタの封建的性格

杉原 義文君

ドイツに於ける宗教改革と農民問題

横井 幸雄君

奴隸制と南北戦争

日置 益君

米國に於ける奴隸解放運動史

吉村 泰輔君

F・T・ターナー「アメリカ史に於けるフロンティアの意義」について

島田 昭彦君

ルイジアナ買収について

下河邊久二男君

フランス革命原因の一考察

鈴木 賢君

フランス革命と農民

谷本 琢磨君

フランス革命に於ける「人間及び市民の權利宣言」について

行武 正雄君

フランスに於ける民衆革命の意義

入交 一雄君

バヴーフについて

笠原 一彦君

八月十日革命の一考察

角南 滋君

十八世紀末ウオリントンに於ける鑛製造工業について

石橋 健一君

フェビアン協會の成立過程並びにベアトリス・ヴェツプより見たる所謂英國的社會民主主義の形成

勝 秀 夫君

一八三二年の英國選舉法改正問題

小貫 景亮君

十七世紀より二十世紀に至る英國の對印度政策

吉田 英康君

H・G・ウエルズの平和論をめぐる一考察

長野 颯夫君

東南アジアの青銅鼓の考古學的研究

野口 義磨君

先秦時代に於ける諸子について

加島 進一君

中世農奴解放の意義

林 一 樹君

クレイブリントン「ジャコバン」斷考

林 寛君

ウオルポールの研究

藤崎 要君

第四一四回例會

昭和廿八年五月二日午後三時 於十番教室

アウグスチヌスの世界終末觀の問題

近山 金次氏

第四一五回例會

昭和廿八年五月二十日午後三時 於六番教室

ノヴァーリスに於ける個體思想の成立

高橋 巖君

日本數學思想と現代

福與 晃君

奈良時代に於ける庶民の佛教

志水 正司君

國史談話會報告

第四九回例會卒業生送別會

昭和廿八年三月二三日午後五時 於豐岡會館

第五〇回例會新入生歡迎會

昭和廿八年五月二六日午後三時 於三田松菱

服部鐘宛福澤諭吉書翰

秋冷之時節相成候處いよ／＼御機嫌よく目出度存候陳ハ今度中津銀行之始末出來私も請取候金子有之候間其内金九拾圓（此内ニ手數料等少々引ケハ可有之）差上候間平生之暮しを少々ニ而もゆるやかニ被成をり／＼は御ほよふ相成度私之存命中ハ決して御難澁はかけ不申小田部中上川ニは不自由なきゆゑ其まゝ差置候得共若し萬一も不時之災難ニ而こまることもある節には姉様三人丈ケハ私ニ而屹度引受候覺悟ニ御座候兄弟姉妹となれば何か縁の遠き様に見へ候得共父母の目から見れば同じ子供ニ而そのかわいさは同様に御座候唯今兄弟之中ニ而私が一ばん仕合せ宜しく候間父様母様ニ代りて兄弟丈ケ之世話ハ致す積り世間ハイザ知らず是れハ福澤の家風父母之教の遺りたるものと存候

又此度お一へ三百圓遣し候是れハ同人事務幼少之時より父をうしなひ母ニ別れ不幸之中ニも先ツ／＼田尻ニ縁付き子供も出來身の落付たるニ付而は少々ツ、ほよふ致させ度其邊の意味今度手紙ニ而竹之助へも申送置候間宜敷御氣を付ケ被下度奉願候
右用事のみ申上度あら／＼如此御座候かしく

（明治）

二十年十月十四日

諭 吉

服部 姉様

尙々私方家内一同ぶじおきんよりも宜敷申上吳候様申聞候以上

（服部三郎氏所藏）